

# モノづくりの原点を見つめつつ 画期的なサービスの世界にも挑戦

## 寿堂紙製品工業株式会社

### 採択テーマ ▶ 大学向け時間割作成支援システムの開発

1947年の創業以来、封筒、のし紙、祝儀袋などの紙製品を中心に、社会生活に必要なコミュニケーションツールを手がけてきた。また、製品提供に留まらず、培った技術をサービスとして高めながら、DMの世界における「メーリングサービス」などを提供。顧客をサポートする新サービスとして、大学向けの時間割作成支援システムも生み出している。

### キーワード ▶ 以真伝信 ～真の技術をもって信用を伝える



専務取締役：山田 彰彦さん



大学向け時間割作成支援システムでは、分かりやすい説明書も用意され、いかに効果的なシステムであるかが紹介されている。



さまざまなオーダーメイドの封筒を作成。個性を主張することができ、多くの企業に喜ばれている。

### ◆ 培ってきた技術を活かして学校との信頼関係を築く

持っている技術に固執するのではなく、時代の変化に即応できる新しい技術に取り組んでいく、進取の気概と実行力も必要だ。そんな考え方を大切にしている同社では、平成に入ってから、DMにおける情報コミュニケーションのビジネスを拡大し、メーリングサービスも始めた。そこで培った印字技術をさらに活かし、卒業証書などに印字する学校ビジネスにも進出。学校との信頼関係を築く中で、シラバス（授業計画書）の作成も手伝うようになった。すると、ある大学の担当者から「時間割を作成するのが重労働でたいへんだ」という悩みを聞く。

### ◆ アナログで属人化していた作業の負担軽減へ

そこで同社は8年ほど前から、大学の時間割作成業務を効率的に行うシステムの開発に挑戦。個人のアナログな作業によって成り立っていることの多い業務のシステム化を進めた。専務取締役の山田彰彦さんは、「大学のカリキュラムは年々多様化・複雑化し、時間割作成の作業は属人化していました。また、キャンパス内の移動や講義に使用する機材など、大学ならではの条件も数多くあります。そこで、あるシステム会社に協力していただき、5年ほどかけてさまざまなエラーをチェックし、支援システムの精度を高めていきました」と語る。

### ◆ 情報コミュニケーションの可能性を探り続ける

たいへんな苦労を重ねたシステム開発だったが、革新的サービスの事業化支援が、これを後押しした。システムのデモ版を完成させ、2017年に大学関係者への説明会を実施。テストユーザーの意見を収集し、ベータ版を開発した。これに併せて、帳票出力などの拡張機能も開発。今後はその効果検証を進めると同時に、他大学などへの拡大を図ろうとしている。「新たな一歩を踏み出すには困難もありますが、これからも相手のお悩みを聞いてコンサルティングする中で、情報コミュニケーションの可能性を探り続けたいです」と山田さんは語った。



紙製品分野で魅力的な製品（モノ）を生み出し続けている同社が、本サービスのような「コト」に着目した事業展開も行っている点が注目されます。デジタル化という外部環境の変化に対応し、今後も新たな市場を切り拓いていくことが期待されます。

### 会社概要

所在地 ● 東京都板橋区弥生町60-4 TEL ● 03-3974-7111 URL ● <http://kotobukido.co.jp>  
代表取締役 ● 山田 樹孝 設立 ● 1947年2月 資本金 ● 7,744万円